



文化・人文社会科学利用パイロットミッション 「手に取る宇宙 ～Message in a Bottle～」

●ミッションの目的と意義

地球を見下ろしながら宇宙空間で活動を行う宇宙飛行士によりガラスのシリンダーに詰め込まれた宇宙を、地上で人々が手にすることにより、この世界の外側で行われている宇宙飛行士と人類の活動について、人類と宇宙との関係について、そして、未来の人類に向けられたメッセージを感じ取ります。

●ミッションで実施する内容

<ISS・きぼうでの実施>

- ・宇宙飛行士からのメッセージビデオの撮影
- ・ボトルカバーへの宇宙飛行士の署名と日付の記入
- ・船外活動によるボトルへの宇宙の取り込み

<地上での実施>

ボトルと編集した映像を取り込み、また観客の方々も参加する形となる作品として公開・展示される予定です。

●代表提案者

京都市立芸術大学 准教授 松井紫朗(まつい しろう)

<松井准教授のコメント>

宇宙は、私たちにとってどのような存在か？透明のガラスのボトルに獲得され、持ち帰られた「宇宙」。それを手にした瞬間、浮かび上がるイメージを確かめたい。

●このテーマの魅力

このテーマでは、地上にいながらにして宇宙を自分の手にとれるという、非日常的な体験を通して、これまでにはない新しい感覚を感じ取ることができます。

●搭載品

ガラスのボトル

(ボトルは、打上げから地上への回収まで、ボトルカバーで保護されています。)



宇宙を詰め込むボトルが入ったボトルカバー

©松井紫朗/JAXA